

次世代育成支援事業 「赤ちゃんってすごい！」

～お母さんってすごい!!～

健康・子ども課 子育て支援係

札幌市では、次代を担う若い世代の小学生・中学生・高校生たちと親子が直接触れ合って遊んだり、「命の大切さ」や「子どものかわいらしさ」「男女がともに育児に関わることの大切さ」を実感できる授業が、活発に行われています。

北区では、平成20年度に、札幌市立北陽中学校・北海道立札幌北高等学校で実施しました。

【平成20年度の実施状況】



札幌市立北陽中学校

平成19年度、札幌市内で初めてモデル事業として、北陽中学校で“赤ちゃんってすごい”の授業を開催しました。中学生にとって乳幼児親子と触れ合う中で、自分も含めて命の大切さを改めて感じたり、子どもに対する視線が変わったりと大きな変化がありました。また、参加したお母さんたちにとっても、この授業を通じてわが子の成長を再確認するとともに、今の若い世代や中学生に対する意識も変わりました。



初めての抱っこ。緊張する。～北陽中学校

そこで、今年度も引き続き、3年生の5クラスが家庭科の授業の中でこのプログラムを実施しました。年間2回のコースで授業を設定し、9月と2月に合計10回開催しました。

授業の取り組みの事前準備として、春に近隣の子育てサロンで参加する親子を募集しました。北陽中学校の場合は「サン・サン・サロン!」や、麻生児童会館などで声をかけ、合計60組の親子が参加しました。9月の第1回目の授業は、中学生も親子も緊張の面持ちでスタートしました。交流が進むうちに、一生懸命質問をしたり、赤ちゃんを抱っこしたり、おもちゃを手に遊びに誘おうとする中学生の姿があちこちでみられ、お母さん方も子どもの好きな遊びなどを積極的に伝えていました。

そして、5カ月が経過した2月の授業では、開始すぐにはお互いに照れていましたが、時間が経つうちに、中学生と子どもが一緒になって遊び、笑い声がたくさん聞かれました。中学生も、「抱っこしたら前より重くなっていた。」「ハイハイして



中学生が作ってくれたコマを見つめて～北陽中学校

いた子が、歩けるようになってかわいい。」など子どもの変化に気づく感想が多く聞かれました。



ほら、お兄ちゃんのほうも見て～。～北陽中学校



北海道立札幌北高等学校

そしてもう1校、平成20年度は札幌北高等学校からも開催の要望があり、2年生・9クラスが家庭科の授業として10月に合計9回実施しました。

こちらも近隣の子育てサロン「ポプラひろば」・「じゃんけんぼん」や、エルムの森児童会館などで参加者を募集しました。多くの方が興味を持ち、50組の親子が参加しました。

初めての取り組みでしたが、高校生は事前の授業で質問を考えてきたり、9クラスあるので、最初のクラスの様子を聞いて、自分たちのクラスの授業が始まるのを心待ちにしていたようです。交流タイムでは、高校生が親子に話しかけたり、一



グループに分かれて遊んでいます。～札幌北高等学校

プログラム

- 10:30 親子来校
- 11:00 生徒入室 授業開始
生命誕生について
- 11:05 ●グループに分かれて自己紹介。
子どもが生まれた時のエピソード
名前の由来など。
●交流タイム
生徒と親子と一緒に遊ぶ。
赤ちゃんを抱っこ。母に質問等。
- 11:50 感想発表（生徒・親）
●お楽しみタイム
- 12:00 授業終了



「受精卵の大きさは、この色画用紙にあってる針の穴と同じです。」の言葉に真剣に見つめる生徒たち。

緒に遊ぼうと誘ったり、赤ちゃんを抱っこするなど、とても積極的に交流していました。授業の最後には、子どもたちに向けて音楽に合わせたお楽しみ（アンパンマンのボードビルなど）を演じ、授業終了時には、一人一人の子どもに“バイバイ”と声をかけるなど、とても有意義な時間を過ごすことができました。

参加した親子からも、またこのような授業があったら、是非参加したいと声が上がっています。



お兄ちゃん一緒に遊ぼう！～札幌北高等学校

中学生・高校生の感想

母親が頑張ったおかげで、今の僕たちがいるんだなあと思った。だからこの命を粗末に扱ってはいけないと思った。

最初は、もう泣きたくなくなるほど嫌だったけど、赤ちゃんをみるとカワイイなと感じて、すぐに抱きたくくなりました。

子どもが好きなので、一緒に遊べてとても楽しかった。今日の経験を自分が父親になった時に生かしていきたいと思う。

参加した親の感想

自分が中学生だったころ、赤ちゃんを産んで育てることは想像できませんでした。でも大好きな人と巡り合って結婚して子どもを授かって、今はとても幸せだと感じています。みんなもこれから、色々なことがあると思うけど、大好きな人を見つけて結婚した時には、是非子どもを産んで欲しいな～と思います。

今のみんなに伝えたいことは、とにかく楽しく生活してくださいということです。自分の子どもが毎日イキイキと楽しそうにしている様子を見ているのが親にとって一番の幸せだからです。

中学校教諭からのメッセージ

小さな命を、大切に育てている母親の優しいまなざしや言葉に実際に触れることで、自分たちもこうして育てられてきたと実感できるようです。赤ちゃんを見る中学生のまなざしは、普段の学校生活の中では見られないほど優しい目をしています。この学習を体験した生徒は、大人になったとききっと優しい目をした親になると信じています。

【さまざまな次世代育成の取り組み】

この他にも、多くの場面でこれからの時代を担う世代の若者と親子が触れ合う事業を応援しています。

区内の小学校6校・中学校1校を会場に、地域の方が主体となった子育てサロンを開催しています。親子にとっては、将来自分たちが通う学校なので身近で参加しやすく、また休み時間には生徒たちが、赤ちゃんたちの顔を見に遊びに来て自然に触れ合いが生まれています。

また“Go!Go!きたっこ夏まつり”“Go!Go!きたっこあそびランド”というイベントでは、子育て支援係と大学生を中心とした学生実行委員会が、企画や準備を行い開催しています。当日は実行委員以外にも、区内の高校・中学校にボランティアの募集を行い、平成20年度は、260人の学生ボランティアが参加しています。

このような取り組みは、児童・生徒・学生が乳幼児や地域の人たちとの触れ合いや交流を通じさまざまなことを学ぶ貴重な経験の場となっています。

子育て支援係では、これからもさまざまな場面で、将来子育てをする若い世代と乳幼児親子とが触れ合う事業を展開していきます。

Go! Go! きたっこ夏まつり



Go! Go! きたっこあそびランド